

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ライラック)

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0190400671 | | |
| 法人名 | 医療法人 北武会 | | |
| 事業所名 | グループホームほくとⅡ(ライラック) | | |
| 所在地 | 札幌市手稲区手稲本町3条4丁目2番5号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年9月14日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年11月17日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190400671-00&ServiceCd=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 評価機関名 | 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部 |
| 所在地 | 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階 |
| 訪問調査日 | 令和3年10月14日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| * 手稲山の麓にある、自然豊かな佇まい。 * 開放感あふれる生活空間。 * グループ内関連施設との連携、連絡体制の充実。(災害時や医療体制の充実) * 誕生日には該当者より好きな食べ物を聞き取りし、希望食を提供している。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| 当事業所は、札幌市手稲区の市街地に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内で、3階建ての1階と2階にある3ユニットのグループホームである。国道5号線沿いで、近隣にコンビニや飲食店があり利便性のよい地区である。建物内は、病院転用型で3階にも同法人の2ユニットのグループホームがあり、2階には渡り廊下で特別養護老人ホームが併設している。1階には多目的スペースがあり、介護予防センターなど地域の活動に開放している。ホーム内は、リビングや食堂、廊下、居室、職員休憩室など全て広くゆったりしている。法人は、医療法人だが社会福祉法人などを含めて幅広い業容展開をしている法人グループで、病院や老健施設、特養老人ホームも5カ所運営しており、地域への貢献度が高い。利用者は広いリビングの大きな窓から手稲の街並みを一望しながら、ゆったりと寛いで毎日を過ごしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策の為、面会の制限や外出の自粛をしているが、今後は少しずつ従来通りに再開していく予定だ。認知症高齢者の支援施設としてこれからも期待したい。 |
|---|

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取組の成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---------------------|--|----|---|---------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) | ○ | 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | ○ | 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | ○ | 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12) | ○ | 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない | | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 介護理念は職員が毎日目の届きやすい申し送りを行っている場所に掲示している。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域との交流を予定(計画)していたが、コロナ禍の為実施出来なかった。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症サポーター養成講座への参加を予定・計画していたが、コロナ禍の為実施出来なかった。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会についてはコロナ禍に依り、書面開催となり、意見交換が出来ず報告と書面を通じての意見等の交換となった。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 毎月初の札幌市への入退去情報報告をはじめ、報告すべき事故が起こった際には速やかに市への事故報告書を挙げている。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 現在当該施設に於いて「身体拘束」の対象者となる方はいないが、身体拘束廃止に係る委員会を3か月に一度開催し、研修会(伝達講習)等も行って意識の啓発を行っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修としてグループホーム単独での勉強会を実施し、委員会での検討した内容を職員全体に周知徹底している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用されている利用者様がいらっしゃる為、その方を通じてご家族や弁護士の方から制度に関して学ぶ機会を得ている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用開始の契約締結時や介護度変更、利用料金の改定、又、介護度の変更に於ける他施設への利用についての説明を随時行っている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様については、日々の生活の中の会話や表情などから要望等を汲み取るように努め、ご家族様には運営推進委員会の議事録の送付や面会時、電話連絡の折などにご意見や要望等を聞き取りし、運営に反映している。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングや申し送りの際、又、管理者と職員間の連絡帳を通じてや、個別面談時に聞き取りを行い、出来る限り反映出来るようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 介護職員を中心とした処遇改善手当、職員紹介制度、保有資格に於ける手当の優遇、人事考課に依る給与水準や賞与の査定など職員がやる気を持てる職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内外研修はコロナ禍の為、中々難しいものがあるが、そのような中でも実施される研修に関して日頃より心に留めて、適任者を参加させている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | コロナ禍により直接的な交流の場は持てなかったが、入居の問合せ等を通じて電話・メール等での情報交換を行い、他施設の状況を把握するように心掛けている。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用開始時には利用者様にはご本人の希望や不安に思われている事こんな生活をして行きたいという全体像を掴んで、関係作りに励んでいる。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族には施設に入居される時は勿論のこと、入居後でも、尚、ご心配や不安があると思われる為、いつでもどんなことでもご相談頂けるよう、遠慮の要らない場所であることをお伝えしたり、肌身で感じて頂ける様努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 地域包括支援センターやグループ内の他施設などとも連携し、ご本人とご家族が今一番必要とされている支援、他のサービス利用・紹介も含めた対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | サービスを受ける・サービスをする一方通行的な関係に陥らないよう、ご本人の残存機能などに目を向け、共に生活を支え合っていると言う関係性を築いて行く。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者様の日常のご様子や些細な情報を含めて常にご家族と情報を共有し良好な関係を維持出来るよう努力している。今年度はコロナ禍に依る厳しい面会制限があったが、その中でも工夫し面会を希望されるご家族には機会を提供することを行った。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍により実施出来なかった。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 相性の悪い入居者様同士とは適度な距離を置いたり、職員が間に入るなどしてどちらの方も孤立しないよう、出来る限り関わりの機会を増やして行くような支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 全く他の施設に移られてしまわれた場合にはコロナ禍と言うこともあり、音信普通となってしまうことが多かったが、グループ内の転居の場合などには様子を聞いたり、亡くなられたご家族にはお悔やみの手紙を出すなどして途切れない関係性を心掛けた。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員全体からアセスメントを行い、ご本人の希望や意向知る手掛かりとしている。困難な場合にはご家族からの情報の聞き取り、可能な限りご本人の意向をその言動から汲み取る工夫を行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や今までの習慣や拘りなど入所時のアセスメントで確認を行っている。又、日々の会話の中から今まで得ていなかった生活歴や習慣・拘り等を傾聴している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の介護記録や特記事項の記録、又、バイタル測定の結果、申し送り時の注意点などを元にし、得られた情報を職員間で共有している。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 新しいケアプランを作る際にご本人への聞き取りは勿論だが、ご家族に手紙を書き、ご本人に関すること何でも、例えば今後の生活に対する要望等や職員に試してみたいことなどを忌憚なく書いて頂き、それを参考にしている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録に関しては業務に入る前にざっと目を通す、特変事項などは他職員から聞き取る、又、個別の記録から現在問題を抱えている入居者様の情報を得るなどし、職員間で情報の格差が生まれないように工夫している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 働いているご家族や体調を崩されているご家族などについての受診同行など、出来るだけそのご家族に即したサービスや支援を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 残念ながら地域資源の活用はコロナ禍の為、出来なかったが通常であれば「夏祭り」や「町内会の清掃」など行事に参加していた。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 掛かりつけ医は入居時に施設と連携している病院をご紹介します。その際には訪問診療の回数・内容など詳細に説明を行い、ご本人・ご家族の納得の元に関日病院側と個別の契約を結んで頂き、緊急時・入院紹介などの対応・手配を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職員は日々の関わりの中で体調に特変等が見られる際には速やかに看護職員へ報告・相談を行い、指示を仰いでいる。又、介護職員に出来ない処置等を行ってくださっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後の医療機関とはご本人の入院前の状況や既往歴・処方薬などの詳細な情報を速やかに伝え、入院中の病状や入退院時期の決定など細やかな情報交換を行うように傾掛けている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 入居契約時のご家族との説明の中で看取りを行っていない旨をご説明し、納得頂いてから契約締結としている。又、突発的に状態低下の見られる利用者様に関しては主治医からの説明に基づきご家族の意向の確認、今後の方針や方向性を随時話し合うようにしている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時や事故発生時の対応に関するマニュアルは職員が常に手に取って確認出来るところに用意し、フローチャート図にして掲示している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 各種災害に対する「防災マニュアル」を整備し、同じ建物の施設との合同避難訓練を実施している。災害時の備蓄品等についても定期的に点検・期限の確認等を行っている。 | | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 認知症を深く理解しその方の人格を尊重し、尊厳やプライバシーを如何に大切にするかという事を折に触れ話しをしているが、一部職員の中には不適切な接遇の場面が見られることもあるので、継続した研修なり学びの場が必要である。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 認知症の進行と共に様々なことに関するご自分の思いや希望を表現することに難しさが見られてくる中、自己決定して頂く困難さを感じている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 決まった時間内で行って頂かなくてはいけない事が多々ある中、出来る限りその方のペースや拘りを大切にしながら支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 特に男性職員はその方らしい服装や好みの色や柄などに無頓着な様子が見られるが、女性職員に関しては上手に褒めながら季節に合った衣服を着用して頂ける様、支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の形態・ムセ込みや誤嚥の様子、とろみの使用の可否・その方に合った使いやすい食器の選定などにもう少し検討の必要があると思われる。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者様お一人お一人で好みの食べ物も違い、食べ方にもペースがあり、水分補給が難しい方や召し上がる食事の量が少ない方と其々いらっしゃる中、色々な工夫をし、それが原因で病気を誘発することの無いよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 歯磨きに関しては毎食後行っている。ご自分で出来る方はご自分で、見守りや介助の必要な方は職員が立ち会い実施している。歯科医の往診もある為、歯科衛生士に依る口腔衛生についての指導も行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 失禁の多い方でも出来る限りトイレでの排泄が可能なように、時間を見て声掛けや誘導を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 軽い体操やなるべく身体を動かす機会を持ち、排泄の状況を職員間で把握し便秘解消となるような食べ物や飲み物を提供する様支援している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | 時間的に1日3名入浴となる為、特に行事や往診のある際には、入居者様のタイミングやペースに合わせる事が難しいこともあるが、その方の拘りを重視し、希望に沿うようにしている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | この夏は特に猛暑だった為、冷房の設定温度の管理や窓・扉の開閉に依る温度の調整、衣服や布団などにも細やかに気遣い、安心して入眠出来るように心掛けている。起きて来られた方には飲み物を提供したり、お話を傾聴したりして対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の変更等が往診時などに行われた時には、連絡事項として職員に周知している。又、誤薬等のないよう二重三重チェック態勢を整えている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 今年度もそうだが、前年度に於いてもコロナ禍で外出や外部との交流などの行事を実施することが出来なかったが、それに替わる行事をユニット内で行うことが出来た。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍により実施出来なかった。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居時に入居者様に金銭を持たせない様お願いはしているが、少しでも持っていないと安心出来ない方などおられる為、使用するしないは別として小銭程度なら所持して頂けるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や友人などに手紙(ハガキ)を書いて「出して欲しい」と言われる方や、家族に電話をしたいと言われる方がいっしゃり都度希望に添った支援を行っている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有空間でもあり、居室の次に過ごされる時間が多いフロア(居間兼食堂)に関しては、その季節に沿った飾りつけを行い、誕生日会の際にはご当人の名前が入ったプレートを飾って気分を盛り上げている。又、テレビの音量にも気を配り大きすぎる音にならないよう適宜調整を行っている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間においても椅子やソファなどを随所に設置し、食席に座る方もいればソファで一人くつろぐ方もいるようになっている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時ご家族には、ご本人が使い慣れたもの、気に入っておられるものを持参頂き、住む場所が変わっても馴染んだものに囲まれて過ごせるようにご説明し、ご持参頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | その方その方で使いやすいトイレがあり、目印となるようなものを設置している。又、個人個人の居室の扉横の壁には入居者様のお名前のプレートを飾り目印となるような工夫をしている。 | | |